

優秀賞

大学生部門

東京農業大学 4年

荒木 真帆

## 前を向いた朝、秋晴れの日。

大学に入学して見つけた夢。イルカ博士。「イルカの事なら彼女」と言われるような人。きっかけは覚えていないけど、好きの始まりは幼稚園の年長さんのようだ。なぜならその年の短冊に、「大きくなったらイルカと遊ぶ」と書かれていたから。その想いはぶれることなく大学に入学、研究職の恩師と出会い、迷わず自分もその道に進むことを決めた。イルカのことを誰よりも深く知りたいと思った。

決意してからは順調だった。初めての研究である卒論はうまく進んでいたし、希望した大学院にも良い成績で合格することが出来た。

でも：合格発表から一ヶ月後、父が解雇されると知った。父の収入に頼っていた私の家族の先行きは、突然不安定になってしまった。東日本大震災で家を建て直した為二重ローンであるし、優秀な妹はフランス留学を控え、弟は俳優を志している。私達の為、母は、今の仕事を辞め稼ぎのよい仕事に転職する、と言った。

母はもう五十になるし、今の仕事をとても気に入っている。絶対にそんな負担はかけたくない。妹弟はともかく、私はすぐ就職し、稼げる状態だ：イルカ博士を、諦めれば。

本当に苦しかった。どうするのが正解だ？働きつつ研究？それは厳しいと恩師。進路変更して水族館に就職？今年の募集は終わっている。刻一刻と迫る大学院の入学金振り込み日。奨学金は間に合わない。追われるように水商売に手を出した。雨続きの暗い日々。

そんなある朝、すごく良い秋晴れだった。爽やかで、澄み渡っていて、嘘みたいに青い。ハツとして、溜まっていた洋服を急いで洗って干した。それが、キラキラと光に当たるのを見ている時、突然、「全部大した事ないな」と思った。こんなに空はきれいで、洗濯物が良い香りで。心まで洗濯されたようだった。

大丈夫、きつといくらでも打つ手はある。動け、考えろ、諦めるな。なんだか生まれ変わった気分だ。バイバイ、甘ったれの自分。